

Project “TECUM”

1 背景

崩壊しつつある日本の社会の現状を受け止め、数学教育の復活のための基礎準備に貢献をしたい。

1.0.1 至るところに見られる日本社会の崩壊の予兆

- 怒涛のように進行する文化の低俗化
 - 代表的なものは「公共放送」を僭称する TV 番組
 - * 朝夕のあまりに下らない News と「解説」 vs. BBC, CNN, ABC
 - * 災害や不幸へのあまりに気弱な反応 (最近は何中飛行場の事故)
 - 大衆ドラマですら！
 - * NHK 海外ドラマ 「刑事フォイル」 ⇔ 原題は *Foyle's War*
 - * Amazon Prime Video も例外でない e.g. 「100 才の少年と 12 痛の手紙」 ⇔ 原題は *Oscar et Dame Rose*
 - 「大きな政府」を希求する官と民の無責任体質
 - * 破綻する医療介護保険にだれも改革の声をあげない無責任とたかりの体質
 - * 《文化》と《過去の遺産》の意味が分かっていない大衆的無知に乗じた官と民の恥じ知らずな予算取り合戦

熊本復興 = 熊本城復旧 ?, 後期高齢者の医療費、

 - * 高校教育無償化, 高等教育無償化を「政治実績」を恥じない大衆迎合政党, populism にまみれた政治と行政
- 選択肢のない政治状況
 - * 選択肢を示せない与党と野党 vs. 「いいことしかいわない」と早々と諦める愚かな大衆
 - * 安易な政権批判とスキャンダル報道だけに熱心で、周到な分析と責任ある態度を表明できない「偏らない」報道機関
- 産業界の凋落
 - * 成長を支えて来た基盤産業 developing industry の凋落 (Hitachi, Toshiba, Sony, Sharp) vs. 大衆的な詐欺=新広告産業 (Google, Amazon, Yahoo, Rakuten, Dentsu) だけ。例外は日本では、自動車と小企業のもの創り産業
 - * 《経営責任》に追われる、責任回避優先という一般的風潮 ⇔ 「ことなかれ」と「ヒラメ文化」の一般化
- 教育界の混迷、長期目標の喪失
 - * 高度に専門化する教育専門集団、coaching のビジネス化、早期の「専門」教育 (スポーツに典型的、中学校受験を目指したアクロバット教育)
 - * 教育成果に責任をもたない、大衆に迎合し、大衆を食物にしている「学位」ビジネス、そのおこぼれに預かる「研究者」集団

1.1 数学教育の周辺に見られる崩壊の予兆

- 数学を知らないだけでなく、数学を憎む数学教員の学校への支配的影響
- 「結果」だけを学校、教師に求める、保護者、社会、行政
- 「数学は暗記」という独裁専制国家の大衆並に洗脳された若年層
- 課外活動や保護者説明会に、自己の空間と存在理由を見出す数学教員

重要なことはこれらは社会全体の崩壊現象と一体となっている、ということ。

教育が墮落するのは社会が墮落しているからであって、墮落した教師が誕生、増殖しているからではない。墮落した教師が増長するような社会があるからである。

2 崩壊を遅らせるための緊急避難

崩壊しつつある日本の教育、とりわけ、数学教育の復活のための基礎準備

- 数学を愛し、数理世界への憧憬をもち続ける教師の連帯と情報交換の輪
- 数学を愛し、数理世界への憧憬をもち続ける教師の存在の世間へのアピール
- 数学を愛し、数理世界への憧憬をもち続ける教師集団への引力の形成と持続

2.1 提案: 「数学教育者群団」の法人化

- 数学教育にただならぬ関心を抱く
- 尊敬と友情と連帯で結合した

数学者の内的な構造をもった集合＝輪(環)となった軍隊(群体)

その任務 mission は、全部が直ちにできるわけではないが、

- 情報交換のための実践的な数学教育の機関誌「数学教育のロゴスとプラクシス」(仮題)の発行
- 情報交換のための研究会の組織「夏の研究会」「冬の研究会」(仮題)の開催
- 意欲的な教師、学生、保護者のための講習会(「夏の学校」「冬の学校」(仮題))の開催 — 学年別?
- 数学教員バンクの構築
- 教員再教育、教員研修への consultation
- 数学教育の global trend の紹介、日本的な実装への先駆け

2.2 提案: 法人の運営基盤 = 絵に描いた幻想

運営資金の捻出策

- 年会費
 - 一般会員
 - 法人会員
- 機関誌販売費用、講師紹介費用
- 法人寄付

2.3 提案: 「数学教育者群団」の nickname とロゴ

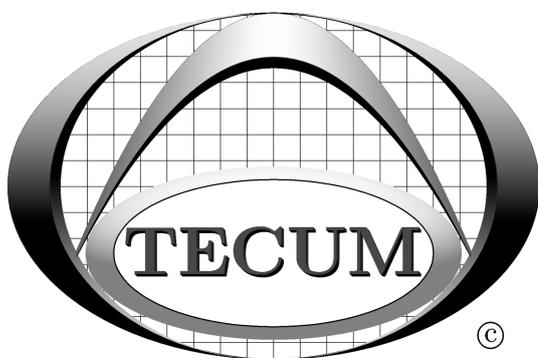
TECUM

te = you, *cum* = with

Ave Maria, gratia plena, Dominus tecum

<https://www.youtube.com/watch?v=Rmk38WuWTQ4>

2.4 提案: 「数学教育者群団」TECUMのロゴ



Think Enhanced Communication in
the World of Mathematics!

2.5 提案: 「数学教育者群団」TECUMの Web site

<http://www.tecum.world>

3 「数学教育のロゴスとプラクシス」(仮題)の特徴

肯定的な言葉でいえば、

- 生徒の可能的な才能を発掘、開花するための使命感に立脚し
- 数学教育の現場を正面から見据え、それを改善する野心的な視座をもち
- 数学教育経験、数理的研究体験、そして哲学的な思索に立脚し
- 教科外、学校外、国外で通用する普遍性と魅力をもつ

独創性と切れ味のある論叢集

否定的に述べれば、

- 普遍的な妥当性を欠いた、自己満足的な教育実践報告
- 「生徒はいかにできない」の報告
- 陳腐な結論を正当化するためのつまらない「統計処理」
- 哲学なき哲学的な述語の乱用
- 数学史なき、数学史紹介
- 国内、諸外国の各界の「権威」に頼る(=逃げる)論考

のような、「業績稼ぎ」とは無縁の、**日本と世界の教育への真の貢献**

そのための精度的な保証

1. 海外の研究者を交えた論文編集委員会の組織(先ずは国内5人、海外3人)
2. 論文編集委員会によるきちんとした査読付き論考 + 少し気楽なJFYの記事
3. 外国語による投稿

扱うテーマは、日本的な状況を加味して、たとえば、

- 共通1次テストから、大学入試センター試験まで — 失われた日本教育の30年
- 私立中学入試の実際
- エリート校と一般校の間の断絶
- なぜ、大学教育学部は凋落するのか
- 数理総合ではなく、理数総合になったわけを分析する
- 大学入試の競争はもはや過去の物語?!
- 日本の子どもはいつから数学が嫌い(苦手)になるか
- 日本の数学教師はなぜ数学を憎むのか
- 教育学部数学科の学生の数学観と数学力

- 日本の中学、高校の数学教員の数学観と数学力
- 数学教員に、研究的な活動への道を開くには
- 「伸びる学校」とはなにか、「伸びない学校」の条件
- これからの統計教育
- 医療の世界で大活躍している数学